

「下妻市防災ガイドブック」をご活用ください

H30.5月 下妻市役所 総務部消防交通課

洪水ハザードマップについて

鬼怒川・小貝川などを管理する国土交通省関東地方整備局下館河川事務所から平成28年8月に鬼怒川、平成29年3月に小貝川の洪水浸水想定区域図が指定・公表されたことを受けて、鬼怒川と小貝川の洪水ハザードマップを改訂しました。下妻市防災ガイドブックの巻末ポケットに入っています。

洪水浸水想定区域図：想定し得る最大規模の降雨に伴う洪水より河川がはん濫した場合のシミュレーションにより予測した、浸水が想定される区域、水深、浸水継続時間などを示した図。下館河川事務所のホームページで確認できます。http://www.ktr.mlit.go.jp/shimodate/shimodate_index010.html

洪水ハザードマップの活用にあたって【ご注意】

洪水浸水想定区域や家屋倒壊等はん濫想定区域に入っていない区域でも、本川に合流する支川のはん濫やシミュレーションの前提となる降雨を越える規模の降雨によるはん濫、内水によるはん濫等（ガイドブックP2）が発生した場合には、浸水が発生することや、想定される浸水深が実際の浸水深と異なること、家屋倒壊・流出等が発生することがあります。

用語について

[想定し得る最大規模の降雨とは？]

《鬼怒川》石井（栃木県宇都宮市）上流域の 72時間総雨量 669mm

《小貝川》黒子（筑西市）上流域の 72時間総雨量 778mm

平成27年9月関東・東北豪雨の際の、石井上流域の72時間総雨量は501mm

[浸水深]

想定し得る最大規模の降雨に伴う洪水により河川がはん濫し浸水した場合に想定される浸水の深さを、浸水ランク（0.5m未満、0.5m～3.0m未満、3.0m～5.0m未満、5.0m以上）により、色分けしています。

[避難施設付近の浸水深]

下館河川事務所が実施した鬼怒川・小貝川のはん濫シミュレーション結果を基に、避難所・避難場所敷地内の浸水最大値を表示しています。鬼は鬼怒川、小は小貝川

指定避難所・緊急避難場所（ガイドブックP16）のうち洪水時に使用する施設については、この浸水深に基づき、今後見直す予定です。

[家屋倒壊等はん濫想定区域]

想定し得る最大規模の降雨に伴う洪水により鬼怒川・小貝川がはん濫した場合のはん濫流により、一般的な木造2階建ての家屋が倒壊するなどの危険性がある区域や、洪水による河岸侵食（堤防の土砂が洗い流されること）により地盤が流失し、侵食範囲にある家屋が倒壊・流出する等の危険性がある区域を示しています。

この区域では、屋内での退避（垂直避難）ではなく、避難所等への立ち退き避難（水平避難）の必要性を判断することが必要です。

[浸水継続時間]

はん濫水が到達し、屋外への避難が困難となり孤立する可能性のある浸水深0.5mに達してから、その水深を下回るまでにかかる時間を示しています。

「下妻市防災メール」登録のご案内（ガイドブックP6）

市では、気象警報、注意情報などの気象情報や、災害時の避難や避難所に関する情報、地震や防災に関する情報などを登録した携帯端末にメールでお知らせします。

登録方法などについては、防災ガイドブックをご覧ください。

「@it-service.co.jp」（パソコンからの一斉送信メール）からのメールを受信する設定である必要があります。端末の設定などについては、携帯会社各社にお問い合わせください。

「自助」「共助」が重要です

【自助】自分の命は自分で守る（ガイドブックP10）

（1）自宅周辺の危険場所、避難所、避難場所、避難経路、情報入手方法の確認のほか、非常持出袋の準備、家具の転倒防止の確認など、自分自身や家族でできることがあります。

防災について、家庭で話し合っておきましょう。

（2）大地震の際に家具の転倒により下敷きになることがあります。タンスや本棚、食器棚などは、市販の転倒防止装置などを使って壁や天井に固定するとともに、配置を見直すなどして安全を確保しましょう。

【自主防災組織】（ガイドブックP11）

災害への備えとして、自分たちの地域は自分たちで守る「共助」の考えのもと、地域で結成し日ごろから自発的に防災活動に取り組む「自主防災組織」を結成しましょう。

市では、自主防災組織の結成・活動への支援として、費用の一部を助成しています。

【助成する費用】 結成費用・資機材整備費用・ホース格納箱設置費用

災害時にも、自分に合うものを食べましょう（ガイドブックP8）

災害時でも食べ慣れたものを……。保存性の良いレトルト食品など、いつもより少し多めに用意して、食べて減った分を補充する「ローリングストック」。この方法ならアレルギーや食事制限などの中にあっても、災害時でも自分に合った食事が続けられます。災害に備える有効な方法として、ご家族で話し合ってみませんか？

「マイ・タイムライン」を作ってみよう（ガイドブックP10）

市でも台風による洪水を対象として、河川がはん濫するまでの状況をあらかじめ想定し、防災行動とその実施主体を時系列で整理した避難勧告等に着目した防災行動計画（タイムライン）を作成しています。各家庭においても、避難のための準備は「いつも使っている薬を用意して」「大事なものを二階に上げて」など様々です。

住民一人ひとりの家族構成や生活環境にあわせて、「いつ」「だれが」「何をするのか」をあらかじめ時系列で整理した自分自身のタイムラインを事前に作っておくのが『マイ・タイムライン』です。市内の小中学校でもマイ・タイムラインを学ぶ授業を、平成29年度から取り入れています。

マイ・タイムラインを作成し活用することで、急な判断に迫られる洪水発生時に、自分自身の行動のチェックリスト、また判断の手助けとして役立ちます。マイ・タイムラインについては、下館河川事務所のホームページに掲載しています。

<http://www.ktr.ml.it.go.jp/shimodate/shimodate00285.html>